



留萌市との結びつき

戦前、戦中の日本統治時代にサハリン（旧：樺太）で生まれた方、幼少期、青年時代を過ごされた方が、終戦と同時に道内や国内各地に引き揚げをしてきました。留萌にも樺太出身の方が多くいらっしゃいます。

現在では、留萌港へ北洋材、活カニ、えび、石炭の輸入や、昨年のコルサコフ少女民謡舞踊団との文化交流、トライアスロン大会へサハリン州関係機関や選手の招致を行ったほか、サハリンプロジェクトに市内の企業が参加しています。



この事業の特色とは

留萌市では、低迷する地域経済の活性化と、港湾利用の拡大を目指し、平成14年度に対岸貿易中期行動計画を策定しました。この計画は、石油開発により、生活レベルなど急速な進展を遂げている隣国サハリンとの貿易を足がかりとして、留萌市のもつ地理的特性や地域資源を生か

留萌港の利活用促進、

地場産業の振興、人材育成先進都市の実現、市民レベルの国際交流促進を具体的な戦略目標に掲げ、環日本海貿易を展望し、中期的な施策展開を図ろうとするものです。（下段のフロア図を参照してください。）

これまでの取組みとしては、サハリン経済セミナーの開催、地元経済界のメンバーによるサハリン経済視察、サハリン展の開催、ロシア客船の試験寄港など、サハリンをより身近に感じ、るための交流拡大を図りながら、着実に貿易を進めるための土壌づくりを行っているところです。



白鳥建設工業株式会社
代表取締役
堀松宏朗さん

一昨年のサハリン州経済視察に参加いたしました。サハリンプロジェクトで潜水という自社技術の向上が図れると感じました。留萌港建設事業で培った自社の技術とネットワークを活用し、サハリンプロジェクトの一端に参画したいと考えております。国際標準の設備を整え、なお一層、自社技術の向上を目指します。

留萌に元気を！

留萌市の対岸貿易交流促進のための取組みについて

市では「対岸貿易交流促進に向けた中期行動計画」（平成14年度策定）に基づいて、留萌港の利活用と、経済発展が著しいロシア極東・中国など、日本海を挟んだ対岸地域との貿易・交流の促進に向け、各種事業を展開しています。今月号では、その第一弾として、交流を進めるサハリンの現状や留萌との結びつき、市の事業の取り組みや、将来的な展望など、当事業に期待するマチのみなさんの声も交えながら紹介していきます。

サハリンの今

サハリン州は、南北約950km、東西最大約160kmに広がる細長い島です。州都ユジノサハリンスク市をはじめとして、19の行政区域、18の市、90の町村、200の集落で構成されています。漁業・石油・石炭・製紙・木材産業を主な産業としており、約55万人の人が生活しています。近年、北東部沖大陸棚におい

て豊富な天然資源を利用した大規模なエネルギー開発（サハリンプロジェクト）が進められ、石油の一部は灯油として北海道でも消費され、2007年11月からはLNG（液化天然ガス）の出荷も始まります。これに伴い、都市機能の充実や高付加価値製品への注目度が高まり、ロシア国内では充足できない新製品、サービス分野への投資や起業の期待が寄せられています。

今年はこちらの展覧会

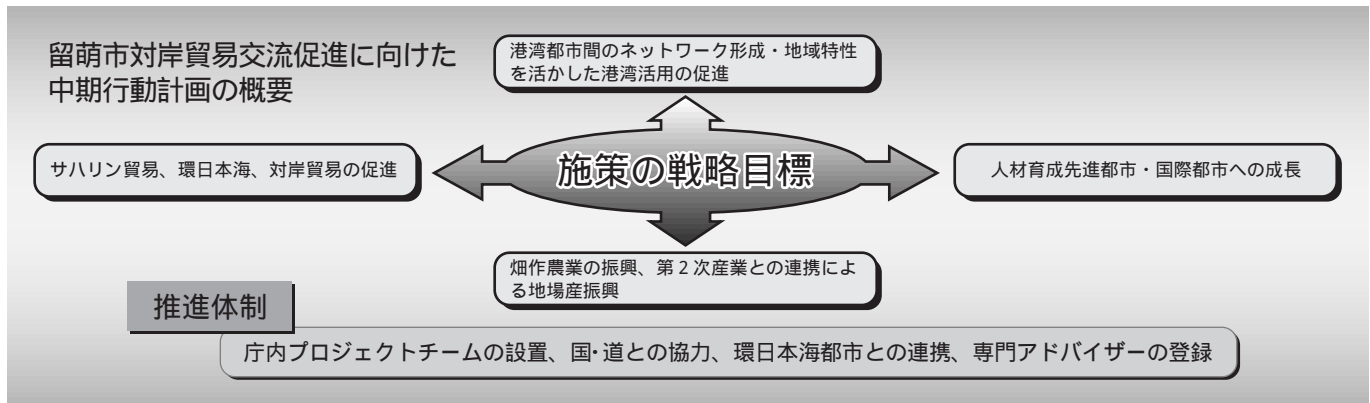
■サハリンるもい展の開催
留萌地域や道北圏の物、技術観光、文化を紹介する見本市「サハリンるもい展」を、この秋にサハリン州都であるユジノサハリンスク市で開催する予定です。具体的な商談や物流ルートの可能性を探りながら、経済交流や文化交流など幅広い交流実現の第一歩となることを目指しています。



留萌商工会議所
専務理事
松田宏幸さん

今年の秋に開催されるサハリンるもい展は、私共、経済界にとっては大きなビジネスチャンスです。技能・技術や建設機械の紹介、自動車用品、文化・観光、日用品等の各種展示販売が計画されています。多くの企業の方々が参加される事を期待しております。

■飛鳥サハリンクルーズの実施
留萌港の活用と道北地域の経済活性化を目指し、留萌港に豪



華客船飛鳥を招致し、留萌港発のサハリン周遊クルーズを実施します。

このクルーズによって今後も留萌港を活用した人的交流の大きな可能性が期待できます。

9月7日～10日の日程で留萌港発の飛鳥クルーズが行われます。
客船飛鳥は年明けに引退することになっており、今年が日本最後の飛鳥クルーズとなります。
今後とも、留萌港を活用した対岸との観光が活性化されることを期待し、皆さんのご参加をお待ちしています。



留萌港開発㈱ 総括部長 梅田繁樹さん



■貿易アドバイザー設置事業

留萌市では、対岸貿易に参入しようと考えている地元企業を応援するため、貿易実務等の専門家によるアドバイザーや相談に要する経費の一部助成を行い、地元企業の参入意欲の高揚を図ります。

対岸貿易対岸交流の目指すところ

社会、経済、文化のグローバル化が進展する中、留萌港を玄関口として、日本海を挟んだ外国である対岸地域とのビジネス、国際交流の可能性を探っていくというのがこの事業の大きなねらいです。

現在は、距離的にも近い隣国ロシア連邦「サハリン州」との貿易、交流を進め、これを足がかりに、将来的には極東、東アジア地域にも目を向けての事業展開を模索していきたいと考えています。

今後、ビジネスの「主役は地元企業」、国際交流の「主役は市民」と連携し、行政はサポート、コーディネート役として情報の提供や交流事業の企画・実施に努めていきたいと考えていますので、応援、ご協力をお願いします。



INTERVIEW

在札幌ロシア連邦総領事 レオニード・L・シェフチュック氏が留萌を語る

留萌市では、一番近い外国であるロシア・サハリン州との交流をきっかけとして、将来的には環日本海という大きな視点を持ち対岸貿易交流プロジェクトを進めています。そこで、去る3月2日、経済振興グループ中林マネージャーと遠藤リーダーの二人で、在札幌ロシア連邦総領事レオニード・L・シェフチュック氏にインタビューしてきました。



留萌市が進めているプロジェクトに対し、ご意見とアドバイスを！

留萌市の計画は、すべてが我々の想いと一致しています。北海道とサハリン州は極東アジアにおいてとても近い国。ロシアにとって北海道が一番大きな役割を果たす地域であると考えています。

このことは両国の関係の中で非常に重要で、欠くことのできない要素となっていますが、経済的にもビジネスの面でも、まだロシアの潜在能力が、フルに活用されていません。

こうした部分の活用のためにも、留萌市でこのような素晴らしいプロジェクトがあることに心から敬意を表します。

このプロジェクトを進めるために必要なことは？

このプロジェクトの成功には、実業家の皆さんが行動することが大切です。行政が担えるのは、両国の人々との信頼関係・親近感を育てるという、環境整備の部分です。

こういった意味からも、草の根レベルからの交流を進めると共に、実業家の皆さんの経済行動に結びつく留萌市の色々な事業は大変素晴らしいと思います。

総領事館としても、できるだけこのプロジェクトに協力したいと考えています。

極東ロシア地域との貿易交流の可能性は？
沿海州・ハバロフスク地方は、サハリン州に比べて経済力が強いので、大陸側の極東ロシア地域の方がもっとたくさんの方々の可能性があることは確かです。

特に、色々な資源や観光といった部分に大きなチャンスがあります。まずは北海道と大陸の間に交通網の整備が必要です。交通網が整備されれば、貿易の可能性はもっと高まるでしょう。

留萌市を含め、道北圏に期待することは？

サハリンと道北圏は、もっと広範な交流を必要としています。また、ロシア極東地域としても、これから

の発展のために国際交流が必要であり、お互いに協力し合う関係が必要です。

これから両地域としてお互いに何ができるかという探求が必要であり、そのためには、まず両地域での人間関係を築いていくことが必要でしょう。

留萌港は、ロシアから非常に近いところにあり、両国にとって、直通で行き来できる大変重要な役割を果たすに違いありません。私も近いうちに必ず留萌市に伺って、直接みなさんとお話がしたいと思っています。

■インタビューを終えて
総領事は私たちの質問に対し、言葉を選びながら、また時にはユーモアを交えながら、非常に丁寧に答えてくださり、近いうちに是非とも留萌市に行きたいとおっしゃってくださいました。

インタビューから、総領事が留萌市のプロジェクトをはじめ、北海道へ非常に関心を持っていただいていることがわかり、大変に心強く感じました。

対岸貿易交流事業についてのお問い合わせはコチラ

市役所経済交流部経済振興グループ
電話42・1840 笹嶋・遠藤まで